

# AOYAMA OIKOS NOMOS



青山学院大学経済学部同窓会会報

2007. 4. 1 アオヤマオイコスノモス 第12号

## 経済学部同窓会主催公開講演会

富田 直('93)

同窓会活動を益々活性化するための会員拡大事業の一環として、一昨年の5月より同窓会主催の講演会を立ち上げました。先日行なわれた講演会の様子とこれまでの講演会に参加してくださった方々の声をご報告し、あわせて今年度の講演会予告をいたしますので、ぜひ皆様のご参加をお待ちしています！！

2007年1月18日(木) 開催

「人生100年時代 仕事と人生に成功するキーワード 明るく 大きく 本気」

人生アドバイザー・モチベーションクリエーター 山崎喜芳氏

2007年1月18日(木) 青学会館にて経済学部同窓会幹事会が開催され、その後引き続いて人生アドバイザーの山崎喜芳氏による講演会が行われました。

1951年青山学院大学卒業後に日本相互銀行に入行、5ヶ所の採算赤字店を見事に再生させ、現在では人生アドバイザーとして「元気の出るセミナー」を各地で開催されていますが、身振り・手振り・ジョークを交えながら一時間の予定を大幅超過するという熱弁に出席者全員が山崎ワールドを堪能しました。以下、講演内容の凝縮版をお届けします。

私は銀行マン時代に5ヶ所の支店長を経験しましたが、いずれも赤字支店でした。その支店を全て黒字化して会社から表彰を受けた訳ですが、組織を活性化するためにはまず明るく楽しいこと。リーダーが明るくなかったら、部下のモチベーションは上がりません。

これは銀行だけでなく、全ての企業・組織にいえる事だと思います。真面目にやってもそこに明るさが無い会社は人が寄り付きませんので、儲からないのは当然です。

また戦後の学生時代に出会った駐留米軍から戦略的発想の大事さを学び、戦略的に仕事をしました。例えば沼津支店時代はカネがどう流れているのか等戦略的な観点からプロジェクトを仕掛けて黒字化に成功、またある支店では合併銀行の宿命とはいえ出身行以外の人間とは挨拶もしないという状態でしたが、明るく元気にすることに努め、支店内の融和を成功させました。預金を取ったり取られたりという戦術論ではなく、戦略論で仕事を進めた結果だと思います。

また私は作家の邱永漢氏とも懇意にしていますが、邱さんの考え方は実務家には実に参考となる言葉が多いのです。現在82歳の邱さんですが、今でも3日に一度は飛行機に乗り香港・

上海・北京等を視察しています。この方のHPには中国の情報満載されており、問題は山積だが最近の中国の急成長という現実を認識しないとビジネスの方向性を間違えてしまいます。ともかく中国のパワーは凄いのです。

こうやって成功談めいたことを喋っていますが、実は私の人生の原点は14歳の時に母親から貰った『権威』（後藤静香著）という一冊の詩集です。「第一歩」「本気」等心を揺さぶられる詩に出会い、それ以来座右の銘としています。トヨタ自動車があればだけの業績を残しているのも、ちょっと古い話だがバルセロナ五輪で水泳の岩崎恭子さんが金メダルを取ったのも、また今年大リーグへ移籍したあの松坂大輔投手が横浜高校時代あだけの成績を残したのも「言葉の刷り込み」によってやる気を起こさせたからです。トヨタは「世界一」というキーワードで社員をやる気にさせ、岩崎・松坂は「第一歩」という詩の一説「目標がその日その日を支配する」、「本気」という詩の一説「本気ですれば大抵の事は出来る」を心に刻んだ結果だと思います。そして最後に繰返しになりますが、何より明るく楽しく、リーダーが明るくなれば組織を変えることは可能です。

以上



◆◆◆ 講演会参加者より ◆◆◆

経済学部を卒業して金融関係の会社に勤めて丸3年が経ちました。仕事にも慣れてきて普通の毎日が普通に流れていくような日々。そんなある日、経済学部で講演会があるから来てみないかと、お誘いをいただいたので、久しぶりに友人数人にも声をかけて、大学に行ってみることにしました。懐かしい大教室に入ると、そこには学生から社会人、そして定年されている大先輩など、いろんな世代の方がいました。そんな方々と挨拶をしたり名刺交換をしたり、お話をしたりするだけでもいい刺激になりました。

講演会の先生方は経済誌やテレビにも出ている方ばかりで、私ですら知っている方でした。そんな方が、授業を受けていた大教室でお話をしていること自体に最初は驚いてしまいました。今の日本経済がどのようになっているのか、今後どうなるのかなど鋭い視点で語ってくださるだけでなく、雑談の面白いこと。先生方は気さくに、「内緒ですよ～」と言いながら……。この続きは是非、講演会に参加してご自身で内緒話を聞いてみてください。裏話が聞きたくて気が付けば私もう5回も講演会に参加してしまいました。

当たり前のことかもしれませんが、やはり卒業してしまうと大学は遠い存在になってしまいます。しかし講演会に参加することで、私は大学がまた身近な存在になりました。面白い話が聞けて勉強になるだけでなく、いろんな世代の方や異業種の方と知り合えたことも講演会に参加してよかったことだと思っています。そして、私を誘ってくださった先輩のように、私も後輩に声をかけて一緒に気軽に講演会に参加したいと思っています。今後どんなお話が聞けるのか楽しみにしています。

高橋 友季子 ('04)



大学を卒業し、社会の一員となり、落ち着いて自分自身と向き合うこともなく過ぎてゆく二十代。明日を生きるために今日を精一杯に努めている二十代。青山学院大学を卒業してからは、そんな目まぐるしい日々を過ごしてきました。しかし、友人の勧めで経済学部OB・OG主催の講演会に参加してみたところ、幅広い分野の講演を拝聴することができました。今まで気付くことのなかった経済に対する講演や意欲を掻き立てられるような講演、と本当に様々な内容を著名な方々から伺うことができました。

私のような若い世代、ましてや学生からすれば「講演会」という響きはどこか堅苦しく、興味を抱いても参加しようかしまいか躊躇してしまうところがあると思います。しかし、一度思い切って参加してみたいかがでしょうか。先輩方の温かい歓迎を受け、また講演者との距離を感じさせない雰囲気。どこか大学の講義を思い出させる講演会は、懐かしさと学生時代にタイムスリップした気持ちを抱いてしまいます。また、本講演会は学部の諸先輩方と新たな繋がりを築ける場でもあります。

過ごした青春時代は違えど、同じ卒業生に変わりはありません。

せん。本講演会は私にとって世代を超えた仲間と出会い、諸先輩方から刺激を受け、さらに向上しようとの気持ちを抱く場でもあります。キャンパスに戻ることで初心を思い出し、講演会に参加することで新たな知を吸収し、それが明日への活力に繋がっていきます。青山学院大学の良さを再認識させられる経済学部同窓会、講演会で皆様とお会いできることを願っております。

下記の詩集は、ある講演者が紹介したもので、卒業生でもある彼の読み上げた詩集の語りは非常に胸を打たれるものがありましたので、ぜひ皆様にも紹介したいと思い載せました。

「門のとびら」

いかなる鉄門も必ず開く  
いかなる難関も必ず通りぬけられる  
開かないのは確信が足りないから  
たたきようが弱いかからだ  
一度たたいて聞かずとも  
二度たたけ  
三度たたけ  
五度たたけ  
赤誠のこぶしで叩きに叩け  
門のとびらは必ず開く

(著者 後藤静香『権威』より引用)

亀井 晴子 ('05)



～～～ これまでの講演会 ～～～

～～～ 次回の講演会 ～～～

2007.6.13(木)

テーマ：日本の政治はどう変わっていくのか？  
『統一地方選挙から次回総選挙・政局を占う』

講師：日本経済新聞社編集局次長

石川 一郎 (いしかわ いちろう) 氏

～～～ これまでの講演会 ～～～

2005.5.19(木) 第1回「外から見た青山学院大学の評価」

講師：経済評論家・ジャーナリスト 島野 清志氏

2005.11.24(木) 第2回「日本経済の構造変化と景気展望」

講師：第一生命経済研究所首席エコノミスト 飯塚 尚己氏

2006.5.11(木) 第3回「内外経済とマーケットの今後」

講師：みずほ証券投資戦略部チーフマーケットアナリスト

上野 泰也氏

2006.7.6(木) 第4回「バーナンキFRB議長とアメリカ経済の行方」

講師：ジャーナリスト 中岡 望氏

2006.10.5(木) 第5回「国際連結経営におけるM&Aの実務  
～欧米での非・敵対的買収の体験を中心として」

講師：経済・経営評論家 金児 昭氏

## 同窓会費支出の現状と展望

中根 紀弘 ('92)

経済学部同窓会アクティブ会員(年会費をお支払いいただいている会員)の皆様からお預かりした貴重な会費がどのように使われているかを紹介します。

同窓会会則には会の目的として「会員相互の親睦と研鑽を図ると共に大学および経済学部の発展に寄与すること」を謳っています。

講演会の開催:

生涯学習・自己研鑽をテーマに05年度から開催している同窓会主催の公開講演会も07年1月18日の山崎喜芳氏の講演で第6回を迎えました。各界の一流講師をお招きしての講演内容は、参加された皆様からも評価いただいております。このたび「社団法人経済倶楽部」と業務提携を行い、各界の一流講師を継続して紹介いただくことになりました。

会員の皆様に、ご期待いただくと共に、お招きする一流講師に失礼の無いように、一人でも多くの参加を希望します。原則として、入場無料。家族・友人・知人の何方でも参加いただける「公開講演会」として学内の教室で開催しています。

開催は年4回の予定で、今回は6月中旬開催の準備をしています。決定次第、追ってホームページ等でお知らせします。

スカラシップチャリティゴルフ大会:

会員相互の親睦を目的に越生ゴルフクラブで春秋の年2回開催しています。多くの方の参加をお待ちしています。

## スカラシップチャリティゴルフ大会

森 啓 ('58)

経済学部同窓会の活動の一つとして現在経済学部学生へ冠奨学金として毎年二名様に各15万円をお渡ししています。ささやかではありますが同窓会の会員の経済学部学生の皆さんにエールを送る一助といたしたいとの発案から今年で三度目となります。

ご存知のように米国等の大学では大学生奨学金は学生の4割近くが多かれ少なかれ恩典をうけているのが現状です。将来は当経済学部学生の約600人のうち4割の250名に支給できたらどんなにかすばらしいことでしょう。

それを助長する一環として当同窓会ではスカラシップチャリティゴルフ大会を開催し参加者の皆様から寄付を募り奨学金の一部にあてることになりました。今回で4回目となりますが前回までに17万円相当の基金が集まりました。したがって今年度は3人の学生の方々に奨学金を差し上げることができました。

これから先多くの学生の皆さんにこの冠奨学金を受けていただくにはささやかな第一歩を踏み出したわけですが参加者の方々にはこの話を聞かれ5万円、5千円と寄付されたりまた他学部からも賛助していただく方もいらっしゃいました。そしてこのような活動に協力していただく方々の後輩を思う母校愛に満ちた行為にたいして心から感銘いたしております。

今回は下記要領でおこなわれます。毎回行われています越生ゴルフの総支配人でした大西勇喜雄(S28卒)先輩には大変なご支援をいただいております。次回秋の当ゴルフ大会は下記に行われます「エバーグリーン21キャンペーンゴルフ大会」に合流して校友会全体で母校を愛する方々による懇親ゴルフ大会となります。皆様ごぞってのご参加をお待ちいたしております。

第4回スカラシップチャリティゴルフ大会

(主催: 青山学院大学経済学部同窓会)

日時: 2007年4月24日(火) 9時03分スタート 5組

場所: 越生ゴルフコース

〒355-0354 埼玉県比企郡都幾川村番匠61

TEL 00496-3-65-1141

プレイ代: 16,000円

参加費: 4,000円(経済学部奨学生への寄付金500円を含む)

以上今回も成功裡に終了いたしました。

参加会費の中から500円を経済学部在学支援のため、「MITER-BOX」(前号AONサロン参照)に献金します。

母校への支援:

青山学院エバーグリーン21募金に協賛し、各学部同窓会の先端を切って「経済学部同窓会給付奨学金」を設けました。経済学部在学の後輩2名に1人15万円計30万円を04年度から既に3年継続支給しています。07年度はゴルフ大会の献金などを加え、1名増員し、3名の在学学生に奨学金を支給します。ご協力に感謝いたします。

同窓会費の今後の展望:

07年3月現在、アクティブ会員(前述)に登録されている会員は約1千8百名。そのうち会費(年会費・10年会費・終身会費)の納入者は約8百名となっています。

経済学部卒業(商学部を含む)同窓会員の住所判明者の総数は約2万6千名です。会費納入の割合は約3%と寂しい状況です。

今後も、内容の充実した「公開講演会」が開催でき、そして「経済学部同窓会給付奨学金」を継続実施していくためにも、一人でも多くの経済学部(商学部)卒業生にアクティブ会員となつていただきたく、友人・知人にお声をかけ、お誘いくださるようお願いいたします。

エバーグリーン21キャンペーンゴルフ大会

(主催: 青山学院校友会・賛助: 経済学部同窓会)

開催日: 2007年10月3日(水) 雨天決行

募集人員: 200名(応募者多数の場合は先着順で締め切ります)

競技方法: 18ホールストロークプレイ ダブルペリア方式

プレー代: 14,800円(税込み、キャディフィー、グリーンフィー軽昼食付)

会費: 6,000円

申し込み: 青山学院校友会センター内

キャンペーンゴルフ大会担当 多賀天広様宛

TEL 03-3409-9773 メール: ttaga@jm.aoyama.ac.jp

記入事項: 氏名、住所、電話番号、メールアドレス、所属団体(支部)、学部、卒年、ハンデキャップ(もしくは平均スコア)

受付開始: 2007年5月1日(火) 締め切り: 2007年7月6日(金)

特記: 終了後の懇親パーティのみのご参加も大歓迎です。その場合も上記担当までお申し込みください。また13:30分頃お越しください。

以上



## INFORMATION

- ◆ 2007.4.16(月) 第1回役員会
- ◆ 4.18(水) 第1回常任幹事会
- ◆ 4.24(火) 第4回スカラシップチャリティゴルフ大会
- ◆ 5.24(木) 2007年度総会・講演会・懇親会
- ◆ 6.13(木) 経済学部同窓会主催公開講演会
- ◆ 9.23(日) 第14回大学同窓祭
- ◆ 10.3(水) エバーグリーン21キャンペーンゴルフ大会  
(青山学院校友会主催)

## AONサロン

## Feedback (フィードバック)

経済学部教授 玉木 隆敏

走行中の地下鉄車内で友人などと言葉を交わす時に、普段より声が大きくなったり、録音された自分の声を聞いて、ひどく失望したりするなどの体験をすることはありませんか。これは、私たちが、言葉を話す時にフィードバックをするためです。

言葉を声に出して伝達する時、脳からの指令に応じて発音器官(舌、唇、下顎、歯、口蓋垂、喉頭など)が活動しますが、その時、同時に発音器官はその活動振りを脳に知らせます。これが、フィードバックです。脳は、これにより指令どおりに発音器官が行動しているかを確認し、間違いがあれば直ちに修正命令を発音器官に発します。両者は、フィードバックを挟んで、常に情報交換をしているのです。

音声学(声に出した言葉を科学的に研究する学問)では、大別して3つのフィードバックがあります:聴覚(自分の出した声を自分の耳で聞いたり、頭蓋骨に響いたその声を内耳に伝えること)、触覚(舌の先が歯茎に触れたり、唇を丸めた時の状態を感じたりすること)、筋感覚(舌や唇などの筋肉の動き、顎などの関節の動きを知覚すること)です。これら3種類のうち、どれが最優先されるかは、単純には答えられないようです。それは、個々のフィードバックにはそれぞれ独自の役割があるからでしょう。唯一言えることは、これらのフィードバックのどれが欠けても、音声としての言葉を正常に発することができないということです。フィードバックは、子供が言葉のひとつひとつの音を正確にかつ連結して出せるようになるためのメカニズムであり、大人がその能力を常に維持してゆくためにも必要不可欠なものです。

地下鉄での体験では、自分の声を聞くために周囲の雑音を抑えようとして、声が大きくなります。また、録音された自分の声に違いを感じ戸惑うのは、耳で聞いた自分の声と頭蓋骨から伝わる自分の声とが混ざり合ったものを聞くからです。録音機のせいにははいけません。

## 企業の活力・成長に学生の力を!

篠原 幸治 ('84)

NPO法人ETIC.(エティック)(渋谷区神南1-5-7)は学生のニーズと企業のニーズを「長期インターシップ」でつなぐ。企画やマーケティングなどの仕事を希望する学生と、若い感覚・感性・情熱で企業内に刺激を与え、新事業に結びつけたい企業経営者をマッチングさせているのだ。10年間で長期インターシップを体験した学生は実に二千人以上、会社は300以上にもものぼる。インターシップ経験者の中には、そのまま就職する学生も多い。経済学部2005年卒の秋沢崇夫君もその一人(あえて後輩なので“君付け”で呼びたい)。秋沢君は大学入学と同時に本気で挑戦できるものを失い、一念発起し資格取得を目指したが、現実感がない丸暗記と同様の勉強スタイルに情熱は失せていった。そんな時に「長期インターシップ」に出会い、再び情熱に火がついた。高校まで続けたサッカーに似た充実感を感じていたが、自分のふがいなさに挫折感を覚え三ヶ月の就職体験を終えた。しばらくして、リベンジを誓った秋沢君は前回と同じ会社『G a i a X』(<http://www.gaiax.co.jp>)の門を叩いた。前は管理部門であったが、今回は営業。しかし、やはり契約がとれない日々がつづき、再び挫折しそうになる。だが、自ら慕い尊敬し、励ましつづけてくれる上司のために頑張ろうと心に誓った。そして、ついに夢にまで見た初めての契約獲得…。今、秋沢君は起業家の夢を抱きながら多忙な毎日を送っている。「恋愛結婚」のような就職ができる学生も会社も幸せだと思う。

## 編集後記

石井 信之 ('66)

本号では、最近活発に行われている公開講演会に関する最新の要約と感想などを中心として、比較的若い世代の会員に執筆をお願いしました。佐藤英二氏('74)による山崎喜芳氏講演の要約は、当日出席されなかった方々にも当日の盛り上がった雰囲気や彷彿として来るものとなっております。高橋友季子さん('04)と亀井晴子さん('05)の感想もみずみずしい感性を漂わせております。中根紀弘氏('92)は、皆様からお預りしている貴重な会費が如何に使用されているかについて具体的に現状と将来の展望をめぐって述べております。今後も会費の使用につきましては積極的に多種多様な企画を実現すべく尽力していく所存ですので、皆様からの御協力・御援助・御参加を切に望みます。

経済学部との橋渡しのコーナーとなっているAONサロンには、玉木隆敏教授(高等部出身)から興味深い原稿を頂きました。2008年には「現代経済デザイン学科」が発足することになります。21世紀の新しい経済学部のあり方を実現していく大きな一歩となります。今後、AONサロンには、そのような経済学部の新しいビジョンを体現していくことになる若い先生方からの新鮮な教育・研究状況に関する原稿が頂けるものと期待しております。

青山学院大学経済学部同窓会会報 第12号

2007年4月1日発行

発行者 森 啓

発行所 青山学院大学経済学部同窓会

(青山学院大学経済学部・石井信之研究室内)

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 Tel.03-3409-8111 (内線12817)

[www.econ.aoyama.ac.jp/dousoukai/toppage/index.html](http://www.econ.aoyama.ac.jp/dousoukai/toppage/index.html)

皆様からの情報やご投稿、入会申込、会費納入等のお問合せは下記へ!

〒150-8691 渋谷郵便局 私書箱145号

ag-keizaidosokai@ag-dosokai.x0.com